



### 結婚生活で気を付けたいこと、気を付けていることは？

夫:自分ができるところをやるのではなく、相手ができないことをするようにしています。

妻:いつも「無理しなくていいよ」という夫の言葉に助けられています。

(M.Tさん・H.Tさん)

ぶつかることもあるが、そこは我慢ですね。お互い主張ばかりするのではいけないと思います。

(善行さん・和枝さん)

夫:不公平感のないよう、家事分担を!

妻:自分でできることは自分で、「ありがとう」の言葉を忘れないようにします。

(T.Sさん・M.Sさん)



今まで築いた信頼感があるので、お互いを信用して束縛し過ぎない関係がよいのだと思います。

(竹夫さん・千枝子さん)

妻:結婚後、産休に入り、これから夫婦一緒に住む予定なので、家事は分担していきたいです。

夫:頼まれたことはもちろんやります!

(A.Nさん・M.Nさん)

自分らしく自然体で。お互いを尊重し、協力しあうことが大切です。

(幹二さん・コトさん)

新婚の皆さんも、家事などできることを分担し、お互い感謝の気持ちをもって助け合えるような関係を築いていけるよう、気を付けているようですね。

今回インタビューにお答えいただいたご夫婦のなかには、家のことも協力して仲良く過ごされたり、共通の趣味を持っていたりしている方もいらっしゃいました。一方で、家事等の役割をどちらかに信頼して任せるなど、時には束縛しない距離感を大切に、お互いのやりたいことを応援することが夫婦円満の秘訣、と感じるご夫婦もいらっしゃいます。

どれが正解、ということはありません。大切なのは、それぞれの生活環境や仕事、育児のスタイルにあわせて、2人が納得して生活できるように心掛けていくことです。

夫婦という生活単位にある男女にとって、年齢にかかわらず共通するのは、互いに相手を尊重し認め合うことの大切さです。長い時間を共に過ごす相手を大切にして、しあわせな結婚生活を送ることも、ひとつの“男女共同参画”といえるかもしれませんね。

#### 編集後記

渡邊喜正 / 小幡洋子 / 木村諭四 / 飯野文夫 / 萩原敏美

夫婦って、一緒になった時から私の物、俺の物みたいな、子供が生まれればパパ、ママになっているような...何歳になってもフミオ、マサエみたいに、名前呼び合えるようないつまでも恋人気分であられるような夫婦っていいなあと思います。時には距離をおくのも、またいいのかなあ.....お互いの気持ちを理解して行くことが大切のように感じました。(個人の感想)夫婦の形も様々、生活のスタイルも様々 楽しい人生を送りたいです(^\_^)

夏真っ盛り、暑い日々が続いております。夏と言えば浴衣を連想しますが、着ても、見ても涼しいこの不思議な衣類は日本を代表する夏の風物詩の一つです。平安時代が始まりとの説がありますが、現在に至るまで根強い人気を保っている秘訣はいったい何なのでしょう? 今回の特集も結婚を機に夫婦の秘訣が垣間見られるようご紹介させていただきました。これからも時代に合った話題、情報を提供してまいります。

企画・編集 / 下野市男女共同参画情報紙編集委員会  
発行 / 下野市 総合政策部 市民協働推進課  
〒329-0492 栃木県下野市笹原26番地  
TEL:0285-32-8887  
FAX:0285-32-8606  
E-mail:shiminkyoudousuishin@city.shimotsuke.lg.jp

# シエアリング

第20号  
2018.9

~わかちあい~

特集

しあわせな結婚生活の秘訣とは?



晴れの門出。

2人で人生を二人三脚して歩もうと決心した結婚。

50年寄り添った金婚さん、歩き出したばかりの新婚さん、時代は違っても、見つめ合うふたりの瞳の輝きは同じですね。

夫婦は一緒にいると、互いを“空気”のような存在に感じるといいます。それは、相手を思いやり相手を理解し、かけがえのない存在として受け入れているということなのでしょう。

お互いの個性を大切に考え、自分らしく生きられる空気に満ちている人生は素晴らしいですね。

今回は、しあわせな結婚生活のためのヒントを、市内のご夫婦に伺ってみました。

# 金婚夫婦にインタビュー

長年にわたり充実した結婚生活を送るためには、なにか秘訣があるのでしょうか。  
昨年結婚 50年目を迎えた、仲よし夫婦にお話を伺ってみました。

## 幹二さん

子供3人は県内でそれぞれ別居、夫婦2人だけの生活で神仙に感謝しながら幸せに暮らしています。  
庭の手入れは2人で行い、お互いの趣味や活動は認めあって、応援しあってやっています。



幹二さんは現役時代、旧国分寺町の町史編さんにかかわり、国分寺町イラストマップを作成されました。今はその延長として下野市のマップ作りに取り組んでいます。書道・絵画・マンドリン等と趣味も多様で、自宅は私設美術館と言っても過言ではなくビックリ!

コトさんは女性防火クラブに参加し、民生委員を9年経験されました。茶道・華道や大正琴も嗜み、家の窓から2人の奏でる音楽が聞こえる暮らしをされています。



小林 幹二さん  
コトさん ご夫婦

## 千枝子さん

夫は子どものときや消防士だったときの経験で、家事は慣れているので、私が忙しい時は夫が家事をします。  
パークゴルフの練習は夫婦一緒に行っています! 親族と大会に出ることもあるんですよ。

竹夫さんは家業の農業を続けながら、インターネットで旅行先の情報収集もこなすそうです。千枝子さんは大正琴やパッチワーク、押し花、しもつけ元気はつつ体操など、友人との交流にも積極的に参加しています。

また、けんかをする暇もないほど忙しかったという現役時代を終えられて、夫婦共通の趣味のパークゴルフを楽しみ、『まさに今が青春です!』とのことでした。



星野 竹夫さん  
千枝子さん ご夫婦

## 和枝さん

夫が料理する姿を見ていると落ち着かなくて、つい手を出してしまうんです。私が不在にしているときは、お任せしています。

善行さんは「結婚サポーター」として、とちぎ未来クラブで結婚を希望する方の相談や支援のボランティア活動をされています。他にも、趣味として詩吟・剣舞・墨絵等も楽しんでいらっしゃいます。

和枝さんは、認知症サポーターや地域の交通安全見守り隊活動など、ボランティア活動に積極的に参加されています。また、友人と地域ふれあいサロンや健康体操に参加したり、自転車で出掛けたりするなど、健康的な生活を心掛けているそうです。



佐藤 善行さん  
和枝さん ご夫婦



結婚した当初と定年後では、環境や生活状況も変化がありましたか?

## コトさん

結婚当初から、思いやり協力し合って生活してきました。  
私が病気で入院していた時も、私が38歳で看護学校に通い出した時も、夫は私の体を心配しながらも家事や子育てをしてくれました。  
互いを尊敬していますし、趣味や目標を応援しあって、幸せな毎日です。



## 竹夫さん

妻はパートの合間に父の面倒を見ていたため、自分の時間が取れなかったと思います。家事や介護に毎日が追われ、あっという間に定年までできてしまいました。  
定年後は共通の趣味を持ってましたし、お互いにできることは自分でやるようにしています。



## 善行さん

仕事が交代勤務だったため、家事は妻に任せっきり。子育ても参加しにくく、けんかすることもありました。  
定年後は時間のゆとりができたので、趣味をしながら一緒に過ごす時間も増えました。



# 新婚さんにもインタビュー



20~30歳代の結婚についても注目してみましょう。  
今回は、3組の新婚さんご夫婦にお話をうかがいました。

Q これからどんな夫婦になりたいですか?

『相手を思いやることを忘れずに。家庭を築いていくことの大変さもありますが、笑いの絶えない、互いに歩みよれる夫婦になりたいです。』  
(M.Tさん・H.Tさんご夫婦)

『“普通の生活”が一番大切だと思います。家事分担するなど、お互い支えあえたら、2人の趣味の野球観戦も、一緒に楽しみたいです。』  
(A.Nさん・M.Nさんご夫婦)



『ずっと仲良く、長く続く夫婦になりたいです。いつもありがとう、これからもよろしくね!』  
(T.Sさん・M.Sさんご夫婦)